

まきばでひとやすみ。



我が家の斜め前には、小さな公園があります。ほぼ毎日といていいほど、飽きるほど、子どもらと当たり前のように行っている公園ですが、最高にすばらしい場所じゃなからうか。ということに、今更ながら気付き、じんわり感動しています。そこは、ぐるりと一周、桜の木が植えられているため、春には満開の桜が咲き、散り始める頃には一面桜のじゅうたんのようになります。そして

青々とした若葉がしげり、夏には快敵な木陰を作ってくれます。秋には赤や黄色の鮮やかな落葉が地面を彩ります。一年を通し、神様の創られた美しい自然心を味わえるのです。また、この公園には実に色々な人達が集まっています。小さな赤ちゃん、子ども達やお母さん、近くの障害者施設の知的障害や身体障害を持つ方々、老人ホームのお年寄り達が散歩に来ては、遊んでいたたりほんやりしていたり。

小学校の低学年の子達と高学年の子達が一緒になってにややかに遊んでいたかと思えば、近所に住む、90は越えているであろうおばあちゃんがブランコに乗りに来ることもあり、高校生が語り合っているかと思えば、仕事の合間かと思われのおじさんが寝ていた。あらゆる人々が、行き交いながら護一人ふつかることなく隠やかな時間が流れていきます。天国、てこんな所なんじゃないかしらと、ふと思ってしまうし、この平和で豊かな空間が、世界中に広がったらステキだなあ!と思ったり。Dバ子